

# 窒息

## 気道異物除去

気道とは呼吸の際の空気の通り道であり、鼻、口から肺にいたるまでです。

この気道に食べ物や嘔吐物などの異物が詰まると窒息を起こし放置すれば死に至ります。

気道異物除去は救命処置の一つです。目の前で発生した窒息の傷病者は迅速に気道異物除去を行うことにより救命することができます。

### 気道異物除去の対象者

以下の症状がみられる場合、異物（食べ物など）による気道閉そくが疑われます。

- ・ チョークサイン（右図）を出しているとき  
窒息を起こし呼吸ができなくなったことを他人に知らせる  
世界共通のサイン
- ・ 声が出せない
- ・ 顔色が急に真っ青になる



### 成人（16歳以上）・小児（1歳以上16歳未満）に対する気道異物除去

窒息と判断したら大声で助けを呼び119番通報とAEDを依頼し、直ちに気道異物除去を始める。

大声で助けを呼んでも誰も来ない場合（1人の場合）は119番通報とAEDの依頼はせず気道異物除去を直ちに始める。

成人小児は背部叩打法と腹部突き上げ法を併用します。

回数順序は問わず異物がとれるか反応がなくなるまで続けます。

反応がなくなり、心肺蘇生法を行う救助者が大声で呼んでも誰も来なかった場合は119番通報と近くにAEDがあれば先に持ってきた後、心肺蘇生法を実施する。

#### ① 背部叩打法

反応のある傷病者に対し背中を強くたたき気道異物を除去する方法。

片手の手掌基部（手の付け根）で肩甲骨の間を強く、何度も連続で叩きます。

※傷病者が立っている場合は傷病者の後方から片手を脇の下に入れて傷病者の前胸壁と下あご部分を支えて突き出しあごをそらせます。

（図1）

※傷病者が倒れている場合は傷病者を手前に引き起こし横向きにし、自分の足で傷病者の胸を支えます。（図2）

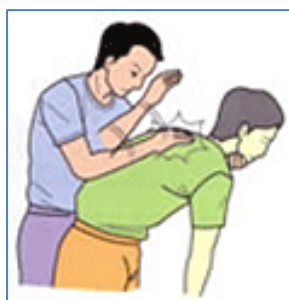


図1



図2

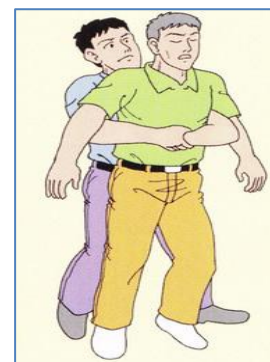
## ②腹部突き上げ法

反応のある傷病者に対し上腹部を斜め上方に圧迫し気道異物を取り除く方法。

※反応のない人や妊婦、乳児（1歳未満）には  
内臓損傷の危険があるので行ってはいけません。

傷病者の後ろに回り両方の手を脇から通し  
片方の手で握りこぶしを作り傷病者の上腹部  
（みぞおちとへその中間部）にあてます。

※こぶしが剣状突起やろっ骨に当たらないように  
注意してください。



傷病者が立っている場合は傷病者の両足の間に片膝を入れて立ち、後方への転倒を防ぎます。椅子に座ったままでも手が届く場合はそのままの姿勢で行います。

こぶしを作った手をもう片方の手で握ります。

体を密着させてこぶしを斜め上方に瞬時に突き上げます。

異物除去されても内臓損傷している可能性があるので医療機関で受診してください。

## 乳児（1歳未満）に対する気道異物除去

乳児の場合、背部叩打法が推奨されます。背部叩打法で異物がでなかった場合は、胸部突き上げ法を試みます。

背部叩打法と胸部突き上げ法を異物がとれるか、反応がなくなるまで繰り返します。

### ①背部叩打法

反応のある乳児に対して背中を強くたたき気道異物を除去する方法。  
救助者の片腕の上に乳児をうつぶせに乗せ、  
指で乳児の下あごを支えて突き出し上半身が  
やや低くなるような姿勢にします。  
もう一方の手掌基部（手の付け根）で  
肩甲骨の間を4～5回強く叩きます。



### ②胸部突き上げ法

反応のある乳児に対して胸骨を圧迫して気道異物を除去する方法。  
背部叩打法で除去できなければ仰向けにし  
胸骨圧迫の要領で4～5回圧迫します。  
体重が重く落とすおそれがあると感じる場合は  
成人小児と同様に床の上で行います。



### 気道異物除去中に反応がなくなった場合

気道異物除去中に反応がなくなった場合はただちに通常の心肺蘇生の手順を行う。

- ① 救助者1名が大声で呼んでも誰も来なかった場合は119番通報と近くにAEDがあれば持ってきた後に心肺蘇生を行う。
- ② 胸骨圧迫を開始。
- ③ 気道確保し口に異物が見えたときは取り除く。
- ④ 人工呼吸を行う。人工呼吸が入らない場合は再度気道確保し、もう一度人工呼吸を行う。ただし、人工呼吸は入らなくても二度までとする。
- ⑤ 胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを続ける。  
※異物が見えない場合、指を口に入れて探らない。